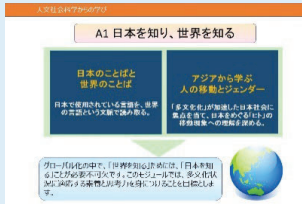


教養モジュール科目案内

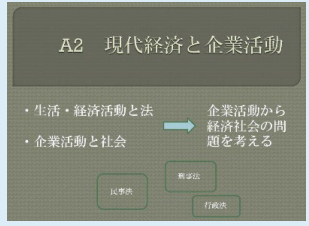
カテゴリー	人文社会科学からの学び		モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A1 日本を知り、世界を知る			
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	賽漢卓娜	責任部局	多文化社会学部	
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。 本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。			
プラネタリーヘルスとの関連性				
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くことになります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。		説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎 吉村 大樹	日本語は敬語があって美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義でわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言	
アジアから学ぶ人の移動とジェンダー	賽漢卓娜	「グローバル化」の進展に伴い、アジア域内においても多様な文化的・社会的・民族的バックグラウンドをもつ人々は地球規模で移動している。本授業では、「多文化化」を加速させた日本社会に焦点を当て、日本をめぐる「ヒト」の移動（＝移住現象）への理解を深める。		

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国の 際・地 域・社 会	取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を	取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を
日本のことばと世界のことば	◎						◎			○	◎	
アジアから学ぶ人の移動とジェンダー		○			○		◎	○		◎		◎
◎（特に重視）の数	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1
○（重視）の数	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A2 現代経済と企業活動		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井畑 陽平	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立しています。そして、この経済活動は様々な法律によって規制され、公平で公正な経済活動の実現が図られています。本モジュールの履修により、経済活動と法律の関わりを法律学の体系に沿って学ぶことが可能になります。		
プラネタリーヘルスとの関連性	プラネタリーヘルスを実現するためには、社会的秩序が健全に保たれる必要がある。健全な社会的秩序は個人だけでなく、企業をはじめたさまざまな組織等の経済主体によって維持・影響される一方、経済学的・経営学的観点から合理的な法規制・仕組みによることが必須である。よって、法学・経済学・経営学を学ぶ意義がある。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問いませんが、経済や法律について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望します。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
生活・経済活動と法	井畑 陽平	生活や経済活動をする上で生じる問題について、法律が、実際どのように解決しているのかを学習する。	民法法、刑事法、行政法	○
企業活動と社会	林 麗桂	本講義では、企業組織に焦点を当て、「組織とは何か」について基本的概念を中心に学び、組織と人、組織と環境、組織と社会とのダイナミックな関係を理解する。	経営学、経営組織論	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	取入文科学の内容を	取入文科学の内容を
生活・経済活動と法	◎		○	○	◎	○			○		○	◎
企業活動と社会	◎	◎					○			○	○	◎
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
○（重視）の数	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A3 核兵器のない世界を目指して		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	広島・長崎の被爆から78年を経てなお、核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被爆医科大学を創基に持つ長崎大学として、「核なき世界」の実現は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。本モジュールは被爆地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、核兵器の廃絶に求められる具体的な知識やアプローチを様々な角度から学ぶことを目的とする。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・環境・経済・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	その使用が人類滅亡に繋がりをうる核兵器の廃絶は、まさに地球の健康・安全と直結した人類的課題である。本モジュールでは、核兵器の問題をグローバル・ローカル両方の観点から掘り下げていく。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	核兵器の問題をめぐる、いま世界は大きな試練に直面しています。ロシアによるウクライナ軍事侵襲、そして核使用リスクの高まりは「核兵器のある世界」の危険性をまざまざと示しました。事実、世界には未だ1万2千発もの核兵器が存在し、核兵器廃絶実現の兆しは見えません。被爆者ら世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思っています。長崎大学に学んだことの証となるようなオンラインのモジュールです。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、抑止概念、核兵器政策の歴史的変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状、市民社会の動きなどを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止、市民社会、NGO	○
国際社会と平和	河合 公明	「核兵器」という存在の背景にある国際社会の特徴と仕組み、戦争・紛争に関する問題、「平和」を実現するためのこれまでの取組みなどについて学び、現代における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、国際政治、国際法、平和、安全保障、核兵器、NGO	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国の関心・地域社会	取入り文扱う学の内容を	取社会扱う学の内容を
核兵器とは何か	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
国際社会と平和	◎	○	◎	◎	◎		◎	○	◎	◎		◎
◎（特に重視）の数	1	1	2	1	2	1	2	0	2	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び		モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A4 情報社会を考える			
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	丹羽 量久		責任部局	ICT基盤センター
趣 旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、情報が実社会ではどのように利用されているのかを多角的に知り、かつそれを解釈・活用・表現するための方法について学びます。			
プラネタリーヘルスとの関連性	課題成果を受講者間で相互評価する機会を設けることにより、数多くの他者の意見に触れることができます。自分では気づかない視点から成果を改善していくプロセスを繰り返すことにより、一人一人が特定の立場にとられない多面的な視点で課題に向き合うプラネタリーヘルスマインドを養います。		説明動画	人文社会科学からの学び 24-A4 情報社会を考える 変化が激しい現代の情報社会において大いに活躍するため、大量の「情報」が利用される場面を多角的に知り、それを解釈・活用し、さらにわかりやすく表現する方法を学びます。 ■ 情報と社会 ・ いろいろな分野の「情報」に関わる「問いかけ」に対して、自分の考えをまとめ、他の受講者と意見交換して改善します。 ■ 情報化の役割と課題 ・ 自分でテーマを設定し、その関連情報を検索・整理し、まとめた後にプレゼンテーションする過程において、受講者間の協力がもたらす改善方法を学びます。
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識と技能を身につけてください。			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
情報と社会	丹羽 量久 鈴木 繁 上義 史 福澤 勝彦	授業では、四名の教員がそれぞれの専門分野を取り上げて、実社会における「情報」について講義し、皆さんに問いかけます。この問いかけに応える形で自分の考えをまとめ、さらに、受講者間の相互評価から自分の考えを洗練させます。	情報の価値 情報の結合・活用 人工知能 生体認証 情報の可視化	○
情報化の役割と課題	丹羽 量久	情報化により時間的・集積的・共有的などさまざまな価値が生まれます。この社会で実際に情報化された事例を取り上げて、その価値・応用について調べ、考えます。情報社会における情報化の役割・価値・課題について理解し、説明できることを目標とします。	情報社会 情報システム デジタル情報	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国の 際の際 心・地 域社会	取人 り文 扱科 学の 内容 を	取人 り文 扱科 学の 内容 を
情報と社会	◎	○	○		◎	○	◎	◎	◎		○	○
情報化の役割と課題	◎	◎	○	○	◎		◎	◎	○			○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	2	0	2	2	1	0	0	0
○（重視）の数	0	1	2	1	0	1	0	0	1	0	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

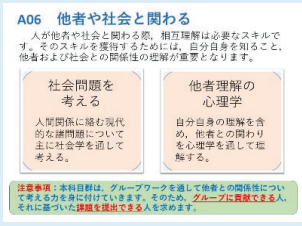
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A5 国際社会を理解するための多様な視点		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松村 真樹	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	グローバル化が進む現在、将来国際的な業務に携わるか否かに関わらず、世界情勢に無関心なままではいられなくなっています。このモジュールは、短期間で現状を理解し、広く浅く国際社会の状況を把握するために必要な基礎知識や歴史的背景を学び、地球市民の一人としてグローバル社会への関心を高めることを目的とします。まず、グローバル社会の多様性を理解するために、人口分布および人口構造とその変化を人口学的に把握する方法を学び、さらにグローバル社会が直面しているさまざまな課題を具体的事例から考察します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	プラネタリーヘルスに影響を与える要因を人口増加、経済格差、気候変動、環境難民などから考える。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	いま世界は分断と対立の危機に直面し、グローバル化の行方はますます不透明さを増しています。こういう時だからこそ、国際社会に関する情報を積極的に取り入れることが大切です。このモジュールが海外事情への関心を高める一助となれば幸いです。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
人口学で見る世界の多様性	松村 真樹	出生、死亡、移動に関する人口統計、従属人口指数、人口転換論などを使って、世界人口の変化と多様性および人口動態と人口構造の変化に関連して生じる課題を考察する。	人口転換 少子高齢化 国際人口移動	○
グローバル化時代の社会問題	松村 真樹	貧困と格差、不平等、民族や宗教の違いから生じる摩擦、移民や難民が直面している軋轢、気候変動、パンデミックなどの課題について具体的事例を概観する。	貧困・格差 不平等 環境・健康	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国の関心・地域社会	取入り文扱科学の内容を	取り社会扱科学の内容を
人口学で見る世界の多様性	◎	○	◎	◎	○		◎			◎	○	◎
グローバル化時代の社会問題	○		◎		◎		◎	○	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	2	1	1	0	2	0	1	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	24-A6 他者や社会と関わる		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	人が他者や社会と関わる際には、相互理解は必要不可欠なスキルです。このスキルを獲得するためには、他者および社会との関係性の理解が重要となります。我々は皆、社会の中で生きる一員として、既に存在する社会の中で育ってきます。つまり我々は、他者や社会のなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、相互理解についての実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえている他者及び社会と関わる状況を明らかにし、その上で各自のスキルをより機能的なものにしていくことが有効です。 本科目群では、社会における相互理解を理論的に理解し、基礎的なスキルを高めつつ、実践力向上を目指します。前半で社会学の分野から他者や社会で起こる事象について理解し、後半は心理学の分野から自己との対話を含む他者との関わりについての深い理解に基づいた実践力向上を目指します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	社会や集団が抱える問題について、社会学と心理学の知見を用い、様々な学部の学生同士がグループワークを行うことによって、新たな解決策を探る。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	大学や社会等での相互理解に必要とされる思考力・分析力など、様々な基礎能力を育成することを目指しているため、積極的な参加が不可欠です。 授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められ、授業後の課題提出も重要です。受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
社会問題を考える	岡田 佳子	人間関係に絡む現代的な諸問題について学修し、グループワークを通じて解決に向けた方策を考えていく。また、そこでの関わりから、人の多様性について考える力を身に付ける。	文化的再生産、学校文化、ジェンダー、ファシリテーション	○
他者理解の心理学	當山 明華	自己と他者とのコミュニケーションだけでなく、自分自身とのコミュニケーションについての理解を深める。グループワークを通して、人の多様性や社会との関わりを理解し、生活に活かす。	思考パターン、意思決定、対人コミュニケーション、社会的ジレンマ、論理的思考	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	へ国の関心・地域社会	取入り文科学の内容を	取り扱った学の内容を
社会問題を考える		◎	○		◎		◎	○	◎			○
他者理解の心理学	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	
◎（特に重視）の数	1	2	1	1	1	0	2	0	2	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び		モジュール科目区分	教養モジュールⅠ
テーマ名	24-A7 国際開発入門と日本文化史入門（英語開講）			
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部			
テーマ責任者	山下 龍	責任部局	グローバル連携機構	
趣 旨	海外へ留学する際、自身のアイデンティティを確立することは重要で、その中でも自国の文化や歴史そして国際的な立ち位置を説明できるようになることは必須です。本テーマでは、「日本文化史」と「国際開発」について英語で学んでいき、またそれを英語で発信できる知識や力を身につけることを目指します。 日本という国が過去にどのような歴史を歩んで来たのか、そしてグローバル社会である今、どのような国際開発を歩んできているのかを学んでいきます。このモジュールでは、ローカルとグローバルの視点を繋ぎながら、日本と世界が向き合うさまざまな課題について考えを深めていきます。			
プラネタリーヘルスとの関連性	「プラネタリー」ヘルスには言葉通り、国際協力は大変重要であるため、JICAなどの国際経験豊かな講師から指導されます。今後のことを考えるために、歴史も理解するべきと言えるでしょう。「温故知新」の心こそプラネタリーヘルスの心である。		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	これから海外の大学へ留学することを目指している学生や、英語による発信力を高めたい学生の受講を歓迎します。国際経験豊かな講師陣とともに、より実践的な内容を英語で講義します。是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。 ※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Introduction to Japanese Culture and History	山下 龍	この講義では、日本の文化や社会を理解するために不可欠な明治末期までの歴史的な知識を楽しく学ぶことができます。	日本史、日本文化史、日本文化	○
Introduction to International Development	遠山 峰司	国際協力に関する主要な概念、課題、仕組み、アクター、日本の実例を学び、開発途上国との関わりを議論します。	国際協力、開発援助、SDGs、貧困、JICA、ボランティア、民間連携	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う
Introduction to Japanese Culture and History	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
Introduction to International Development	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	1	1	2	1	0	2	1	2	2	1	1
○（重視）の数	1	1	1	0	1	2	0	1	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目